

「サステナビリティ」が 企業活動に求められる時代に

気候変動や経済格差の拡大など人類の抱える大きな問題を解決し、地球を次世代へつないでいくための開発目標「SDGs」の重要性が高まっています。そこでSDGsについて、あらためて基本的な考えを見直しつつ、企業活動との関連(特に中小企業が取り組むべき理由)や現状の取り組みについて3回連載で解説していきます。

子孫のために取り組むべき サステナビリティとSDGs

多様な関係者と調整し、社会課題解決に向かうビジネスの「国際標準の話題」のポイントは何でしょうか。それが、よく聞く「サステナビリティ」(持続可能性)という言葉です。今は持続可能な社会づくりにすべての組織が貢献していくべき時代です。

サステナビリティを噛み砕くと、「世のため、人のため、自分のため、そして、子孫のため」を考え、

行動するといった意味になるでしょう。「子孫のため」という世代軸が入っていることが要点です。

そして、世界のサステナビリティに向けた経済・社会・環境の要素を洗い出し2030年に向けた目標としてまとめられたものがSDGs(エスディーズ)です。

今や、SDGsという言葉が新聞などで見かけない日はなくなりました。電通の調査(第4回「SDGsに関する生活者調査」/調査期間:2021年1月22~25日)によれば、国民全体の認知度は54%との

ことです。その象徴が、SDGsが2021年「第34回小学館DIMEトレンド大賞」に選ばれたことです。また、同じく2021年は『現代用語の基礎知識』選の「ユーキャン新語・流行語大賞」(第38回)で2021年ノミネート語30選の一角に「SDGs」が入りました。

地球規模の課題を解決する 変革の時代の羅針盤となるSDGs

あらためて確認すると、SDGsは「Sustainable Development Goals」(サステナブル・ディヴェロップメント・ゴールズ)の頭文字の略語で「持続可能な開発目標」と訳されます。分かりやすく言うと、地球規模の課題を踏まえ未来について語るための世界の「羅針盤」です。

SDGsを知るには、まず、それが盛り込まれた『我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ』という国連文書の重要性を認識することです。SDGsは35ページにわたるこの国連文書の真ん中15ページ分です。SDGsは、人・社会・地球などの望ましい未来像を目指すための、貧困撲滅、健康、環境、技術革新、協働などの17の目標(図1参照)と169の具体的活動(ターゲット)*によって構成されています。先進国や途上国、政府や企業といったすべての関係者が、自主的に取り組む目標です。

これが国連加盟193カ国全員の合意文書であることが極めて重要です。だからこそ世界を見る上での共通言語なのです。そして今やSDGsは、この169のターゲットレベルまでよく読み込み、そこから自分や組織のやるべきことを洗い出す段階に入っています。それを理解せずに、SDGsのバッジがどうだという時代は、世界ではすでに終わっているのです。

国際的羅針盤がなぜ必要か。それは、予期せぬ危機が次々と世界で起きて、我々は、ビジネスでも生活でも密接に世界とつながっているからです。SDGsを盛り込んだ「2030アジェンダ」のタイトルには「我々の世界を変革する」とあり、まさに変革の時代に役立つように設計・策定されたものです。

企業がSDGsに取り組む 意義とメリット

SDGsでは、企業の「本業力」を使って創造性とイノベーションを起こし、社会課題を解決するという、本業活用が推奨されています。リスクを回避しチャンスをつかんで、社会課題を解決しながら経済価値も上げるところに大きな特徴があるのです。

【図2:SDGs経営のメリット】

企業イメージの向上	社会の課題への対応
SDGsに取り組むことで、多くの人に次のような印象を与えることができる。 ・この会社は信用できる ・この会社で働いてみたい	社会が抱えているさまざまな課題や、社会が必要としていることが詰まっているSDGsへの対応は、経営リスクの回避、地域での信頼獲得などにつながる。
生存戦略になる	新たな事業機会の創出
今後、SDGsへの対応がビジネスにおける取引条件になる可能性がある。企業の生存競争が激しくなっていく中で、持続可能な経営戦略としても活用できる。	SDGsへの取り組みをきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業創出など、これまでになかったイノベーションにつながる。

出典：環境省「すべての企業が持続的に発展するために」を基に作成

SDGsへの取り組みにはさまざまなメリットがありますが、大きく分けると図2のようになります。このような広範な効果があるSDGsを経営に導入すると、組織内変革が進み、対外的にも企業価値が向上します。

SDGs活用は、株価、ブランディング、人材確保など、すべてに関係します。SDGsは、自主的取り組みが基本です。やれる人がやれるところからすぐにでも着手しようというルールです。このルールは怖いです。どんどん差がつくからです。横並び思考から一刻も早く抜け出して、すぐにでも自社は何をすべきか、SDGsをヒントに考えなければいけません。

ICT関連は、特に目標9(産業基盤・イノベーション)に関係しますが、ICTが最終的に使われる出口のところが重要です。例えば、医療系やエネルギー関係で活用されれば、間接的に目標3(健康)や目標7(クリーンエネルギー)の達成に貢献していると考えられます。

このようにSDGsとICTは幅広い分野で関わりをもつといえるでしょう。次号からは、この両者のつながりを中心に最新のSDGs情報をお伝えします。

※169の具体的活動(ターゲット):農林水産省のサイト(https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/sdgs_target.html)を参照ください。



菅谷 秀光氏

千葉商科大学教授・ESG/SDGsコンサルタント。東大卒。1977年農林省入省、農林水産省大臣官房審議官などを経て2008年退官。同年伊藤園入社、取締役などを歴任し2020年4月より現職。「産官学」すべての実務経験を活かし、サステナビリティや企業の社会的責任、地方創生などをテーマに、特にESGやSDGsに対応した企業ブランディングと社員士気の向上を通じた企業価値を高めるためのサービスを提供。現在、幅広くパネリストや講師として登壇。著書『Q&A SDGs経営』(日本経済新聞出版社)など。菅谷秀光公式サイト<https://csrsdg.com/>

ユーザ協会 D40026 検索



【図1:SDGsの17目標】



【参考】持続可能な開発目標(SDGs)の詳細

目標1 貧困	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	目標10 不平等	各国内及び各国間の不平等を是正する。
目標2 飢餓	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	目標11 持続可能な都市	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間住居を実現する。
目標3 保健	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	目標12 持続可能な生産と消費	持続可能な生産消費形態を確保する。
目標4 教育	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	目標13 気候変動	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標5 ジェンダー	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	目標14 海洋資源	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標6 水・衛生	すべての人々の水の衛生と利用可能性と持続可能な管理を確保する。	目標15 陸上資源	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
目標7 エネルギー	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。	目標16 平和	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
目標8 経済成長と雇用	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。	目標17 実施手段	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
目標9 インフラ、産業化、イノベーション	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。		

出典：外務省パンフレット:「持続可能な開発目標(SDGs)と日本の取組」を加工